



くすのき

2026年 1月 7日
稲美町立母里小学校

【 謹んで 新年のご挨拶を申し上げます 】

今年は「午年」で、干支は「丙午（ひのえ・うま）」です。「丙（ひのえ）」は、十干の3番目にあたり、「太陽や生命のエネルギー、明るさ」といった意味を持つそうです。また、「午」は馬を表します。昔は、「馬」が人間の生活にとってとても重要な役割を果たす動物であり、健康や豊作、発展の象徴でもありました。健康・発展のイメージから、午年は、エネルギーや行動力が高まり、新大地を蹴って走る馬のように元気にあふれた勢いのある年にしたいですね。



「自分も ひとも 大切にす り母里っ子」を合言葉に、児童の主体的な活動を進め、互いに認め合える個性の伸長や望ましい人間関係の育成を図るよう、特別活動を中心に取り組んできました。児童が自分の特徴に気付き、よい所を伸ばし、自己肯定感をもちながら学校生活を送るようになることが大切だと考えています。そして、小学校の6年間は児童の発達に大きな幅があるため、低学年、中学年、高学年の発達の段階に応じた特長を考慮しながら教育活動を進めています。例えば、低学年では、自分でしなければならないことができるようになるとともに、幼児期の自己中心性は残しつつも、他の児童の立場を認めたり、理解したりする力も付いてきます。善悪の判断や具体的な行動については、先生や保護者の影響を受ける部分が多いものの、行ってよいことと悪いことの違いができるようになります。このため、行ってよいことと悪いことの違いが自覚でき、社会生活上のきまりが確実に身に付くよう繰り返し指導することが求められます。中学年では、社会的な活動範囲が広がり、地域の施設や行事に興味を示し、自然等への関心も増えてくるとともに、自分の行為の善悪をある程度反省しながら認識できるようになります。このため、内省できる力を身に付け、自分の特徴を自覚し、よい所を伸ばそうとする意識を高めることが求められます。高学年では、相手の身になって人の心を思いやる共感能力が発達してくるとともに、自律的な態度が発達し、自分の行為を自分の判断で決定しようとするに伴い、責任感が強くなり批判的な能力も備わってきます。このため、自律的な傾向を適切に育てることが求められます。



このように、それぞれの発達段階に応じた特長を考慮しながら、児童が自発的・主体的に自らを発達させていくことを尊重して、その発達の過程を教職員が支え、「個性の発見とよさや可能性の伸長と社会的資質・能力の発達を支える」働きかけを続けていきます。そして、児童が夢や目標の実現に向けた努力が実を結ぶように、ご家族とともに教職員一同、今年も応援していきたいと思っております。今年も、よろしくお願ひします。

【 学校評価アンケート ありがとうございました 】

学校評価アンケートをお願いしたところ、多数ご対応くださりありがとうございました。以下のとおり、保護者アンケートの集計結果をお知らせします。また、児童アンケート・教職員アンケートとあわせて考察し、よりよい学校づくりに努めたいと思います。(A:そう思う B:ややそう思う)



分野	項目	A+B%
学校運営	学校だよりや各種たより、ホームページ、一斉メールなどでわかりやすい情報発信をしている。	99%
	楽しく意義ある行事(運動会や学習発表会・校外学習など)を実施し、時期や内容についても適切である。	96%
	美化に努め、校舎内外のものが整理整頓され掃除が行き届いている。	95%
	保護者からの相談に適切に対応している。	92%
	事故防止に努め、地域と連携して、登下校の子供たちの安全を守るための取り組みをしている。	87%
教育課程	授業方法を工夫し、わかりやすく楽しい授業づくりに取り組んでいる。	97%
	児童の学習状況等を適切に評価し、その結果を活用して指導している。	97%
	宿題や家庭学習、学習準備などの習慣が身につくよう指導している。	90%
	自分で課題を見つけ、自主的に解決できるよう指導している。	97%
	挨拶や社会のルール・マナーなどが身につくよう指導している。	99%
	読書に興味を持ち、図書室や図書館などをよく利用するように指導している。	90%
課題教育	様々な機会を通して、命の大切さや心の育成に努め、地域の人々との関わりを通して実践的な力を培っている。	95%
	米づくり、芋掘り、自然学校などの体験活動を充実させ、地域の人材や自然環境などを積極的に教育活動に取り入れようとしている。	97%
	計画的に避難訓練などを実施している。	99%
	外国語を通じて積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成しようとしている。	94%
努力目標	挨拶や人を大切にする言葉遣いができるように指導している。	90%
	友だちと協力し、互いのよさや違いを認め合える学級づくりをしている。	96%
	人の話をよく聞き、自分の思いを話せるように指導している。	90%
	何にでも興味・関心を持ち、自ら学ぶ意欲を持てるよう指導している。	93%
	運動や食育・健康教育を通して、健やかな体の育成に取り組んでいる。	97%

▼ 給特法に關係する法律の改正が成立したこと (R7.6) により、学校評価に基づく学校運営の改善のために、制限のない業務の積み上がりを防ぐ趣旨の規定が設けられました。学校以外が担うべき業務とされた評価項目の削減とあわせて学校における働き方改革の観点を踏まえた評価項目の設定を検討しながら、教師の多忙化に影響することのないよう、時間外在校等時間の縮減などの働き方改革を進めていきます。